

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200183	事業の開始年月日	平成12年10月1日
		指定年月日	平成26年10月1日
法人名	NPO法人介護グリーンハウスえがお		
事業所名	グループホーム グリーンハウス		
所在地	(243-0433) 神奈川県海老名市河原口1丁目10番10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月22日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?0open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、小田急線及びJR相模線の厚木駅から徒歩で5分ほどの相模川河川敷を望む散歩道沿いにあり、広い庭のある家でいろいろ季節の楽しみが感じられます。春はお花が咲き乱れ、夏にはベランダやお庭から花火大会を観覧します。食事は支度から利用者に参加して貰い、料理する楽しさと食事の楽しさを感じていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年3月20日	評価機関 評価決定日	平成29年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線、JR相模線の「厚木駅」から徒歩約5分の場所にある広い庭付きの一戸建てです。道路を挟んで事業所の前は相模川の河川敷となっています。建物は2世帯住宅を改造した2階建てで、1階に5部屋、2階に4部屋の居室がある1ユニットのグループホームです。リビングルームは2階にあります。

<優れている点>

理念に「各人が役割を持つ」という項目があり、「自分のことは自分でする」ことが、日常生活の中で実施されています。自分の食事は自分で運び、後片付けも各自で行い、調理の手伝い、洗濯物たたみ、清掃などについては、得意なことを各自が、率先して行っています。「笑顔こそが最高の良薬」という言葉が事業所のモットーで、職員はこのモットーに従って、笑顔を絶やさず、穏やかな気持ちで介護を行うよう心がけています。

<工夫点>

車いすの利用者や、足の不自由な人のために、階段に添って昇降機が設置されています。しかし、階段を上り下りできる利用者は、足腰を鍛え、健康を維持する目的で、毎日やや急な階段を上り下りしています。各居室の入り口の段差などはそのままにしてあり、利用者は歩行の際に注意を怠らないように訓練しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム グリーンハウス
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関や事務所の職員の目につきやすい場所に「運営理念」を掲示しています。毎月の全体会議では、理念の内容及び個々の具体的なケアについて話し合い、意見の統一を図っています。	「人権の尊重、家庭的な雰囲気、各人が役割を持つ」という事業所の運営理念は、玄関や事務室など目につきやすい場所に掲示されています。職員のミーティングにおいても、理念について話し合いが行われ、日常のケアに生かす努力をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の皆様の協力を得て、近隣のお祭りに参加しています。恒例となった「グリーンハウス祭り」では、近隣の方々にチラシを持って挨拶に伺い、沢山の方に参加をいただいています。	毎年定期的に行われている「グリーンハウス祭り」は、近隣にチラシを持参して参加を呼び掛けています。家族から野菜の提供などもあります。傾聴ボランティアやハーモニカ演奏、草取りなど、地域のボランティアの人々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員さんやボランティアの方々を通して、近隣の方々が気軽にいつでも相談できる体制をとっています。又、見学の希望者も増えてきています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	28年度は運営推進会議を実施していない	運営推進会議は年2回または3回開催しています。出席者は市役所および地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表などで、事業所の状況を報告するとともに、出席者から意見や提案などが出ています。4月からは3ヶ月ごとに開催する予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市民音楽祭（市主催）に入居者全員で参加しました。認知症の高齢者であっても、歌う喜びや、楽しく生活していることをみなさんに見ていただきました。市の担当者と協力関係を保てるよう連絡を取り合っている。	市の担当部署に職員が定期的に訪問しています。電話やメールでも連絡をとっており、運営推進会議には市の職員が毎回参加しています。また市が主催する市民音楽祭には、入居者全員で参加し、市民と交流を深めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回のミーティングで身体拘束について話し合いの場を持っています。玄関は通りに面しているため外部からの侵入を防ぐ為に施錠しておりますが、各居室は施錠していません。外出を希望する方には、付き添うようにして買い物の援助などを行っております。	身体拘束をしないケアについて、利用契約書に「利用者および家族の権利」として明記されています。職員は研修に参加し、ミーティングでも話し合っ確認しています。玄関は防犯のため施錠していますが、利用者が外出を希望する時は、職員が付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待の事例などを参考にして、小さな虐待も見逃さないように、ミーティング等で報告し考える場を持つようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	金銭管理ができない方に対しては社会福祉協議会の中の安心センターに管理の依頼をしており、月1度の訪問を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組みに関して、説明をおこなっています。重度化や医療連携体制の実際などについては、詳しく説明し、同意を得るようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	敬老会・クリスマス会などの行事に家族にも参加していただき、普段から意見をしやすい環境作りをしています。常時 家族、知人の訪問を歓迎し、なじみやすい雰囲気づくりに努めています。	利用者と職員とが話し合う時間をつくり、本音を聞き出すようにしています。家族が来訪する際に、家族の意見や要望を尋ねています。本人や家族の希望についてはミーティングなどで確認し合い、運営に反映させるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングで意見交換し、運営に反映するようにしています。管理者が常に現場におり、コミュニケーションを図りながら相談や提案を出しやすい環境になっています。	職員ミーティングを月に1回実施しており、利用者の状況やケアの方法などについて、意見交換をしています。管理者は毎日現場に出て状況を把握し、シフトに関する要望や、道具類の購入など、職員の希望をできるだけ実現させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	普段から職員の意見を取り入れ、運営に反映させるなどして向上心を持てるようにつとめています。又、個々の意見を吸い上げて、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	県主催の研修の情報を流し、希望者は研修を受けられるようにしています。研修後はミーティングで報告するようにして2次研修を行っています。新入職員にも研修の受講を勧め、実務の指導も丁寧に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣地域のグループホーム協議会に所属し、相互研修など、交流をはかっています。月に1度、同系列のホームで利用者・職員も含めて、交流会を実施しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で今までの生活歴などを基に、本人の心身の状態や本人の思いに寄り添い、要望等を聞き出して、入所時に不安をいだかせないように、職員が本人に受け入れられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が困っていることや不安に思っていることを丁寧に聞き、事業所としてどのような対応ができるかを話し合っています。また、いつでも相談して頂ける様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始時に家族から状況や要望等の詳細を確認して、それをもとに適切なサービスのあり方について家族も含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活の場として各人が掃除、洗濯干し、料理の手伝い等自分でできる役割を持ち、相互関係を築いています。洗濯物は各自で丁寧にシワを伸ばしてたたんでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の訪問や外出などを盛んにして頂き、普段から家族との連携を大切にしています。訪問の際は自室でお茶やお菓子を食べながら、家にいるよう雰囲気づくりを心がけています。ホームの行事にも積極的に参加して頂くようお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近隣から入所された利用者は顔見知りの方々に、散歩のときやお祭りなどでよく声をかけられます。グリーンハウスにも気軽に遊びに来てくださるようにお誘いして、交流が途切れないようにしています。	馴染みの人との交流が途切れないように、電話連絡や手紙の交換、年賀状の作成など、職員はできることを支援しています。散歩の時には近隣と挨拶を交し、地域の人々をグリーンハウス祭りに招待するなど、交流を継続しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	午前中は歌やゲーム・体操等をして声を出したり、身体を動かすようにしています。又、午後は個々の自由な時間を尊重しながらも、テレビを見たり、談話をしたり、利用者間の関係性も考慮して孤立することがないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族からの相談等があった場合は、いつでも応じて、支援するようにしています。各機関との連携も密に行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の何気な言動を見逃さないように、細心の注意をはらい、意向や希望を聞き出して出来る限り、沿うようにしています。家族にもその旨を伝え、本人本位に検討するようにしています。	直接意見をいう利用者に対しては、注意深く話を聞き、あまり自分の意見を言わない人には、日常生活のかかわりの中で、思いや意向を把握するように配慮しています。思いや意向はミーティングなどで確認し、ケアに生かすようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時に本人、家族等にこれまでの暮らし方、趣味などを、丁寧にお聞きして、基本情報を職員間で共有することにより、新しい生活にスムーズに入っていけるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	話し合いを大切にして、日々の様子、変化などについて、時間帯別に日誌に記録し、職員全員が把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個人記録から、問題点や状態の変化などを見つけ出し、ミーティング等で職員の意見等も確認し、検討しています。家族にも報告し、思いや意見を聞きながら介護計画を作成しています。	介護計画書は、本人や家族の意向・要望を聞き、日常の介護記録や基本情報などの資料も参考に作成しています。短期目標と長期目標を設定し、職員のミーティングなどでモニタリングを行い、達成状況を確認してから計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記録し、職員間で情報を共有しています。その記録を基に介護計画の見直し、評価を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調の変化等で、予定日以外の通院など、緊急を必要とする場合などには、家族と連携をとりながら、通院付き添いなど臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市社会福祉協議会にボランティアを依頼し、買い物や話相手をしていただいています。民生委員さんが庭の草取りをしたり、利用者と談話を楽しんだりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回往診を依頼しています。体調の変化があった場合は、24時間電話相談ができ、必要な場合には往診してもらっています。希望があれば家族も一緒に相談して頂きます。年1度の健康診断は当施設で（機器持ち込みで）行っています。	年1回、全員が検診車による健康診断を受けています。月2回、利用者の多くは協力医の診察を受診しています。週1回の看護師、歯科医の訪問診療もあります。かかりつけ医への通院も支援しています。医療情報は「個人介護記録」に記入し、職員間で共有して家族と連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携をとっており、週1度 看護師の訪問を受け、健康管理を依頼しています。職員も不安に思うことを相談し、指導を受けることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折等で入院した場合は、早い時期に、職員が見舞うようにして、環境が変わったこでの混乱を防ぐよう努めています。医師や家族と話し合いながら、できるだけ早く退院できるように支援しています。退院後も、スムーズな連携がとれるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体機能の重度化してきている場合など、家族へ報告し、本人に会って、様子を見て頂くようにしています。医療機関とも連携をとりながら、事業所で出来る対応の仕方を家族、職員、関係者で共有していきます。	「高齢者の心身状況」「容態悪化時の施設対応」の書類で、重度化した場合、事業所で出来ることを説明し、同意書を得ています。容態急変時は主治医・看護師、職員と本人・家族が話し合い、支援しています。看取り介護の実績はなく、今後の体制を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の協力を得て「救急救命法」や「のど詰り」の学習や訓練をおこなっています。事故、急病が発生した場合のマニュアルを作成し、職員間で確認出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年数回、ホーム内で避難訓練や通報訓練を実施しています。常時 避難場所のマップは目のつきやすい場所に掲示しています。災害時の避難場所などは、自治会館等に、常に確認をしています。	昨年は避難訓練と、消防署立ち会いによる救急救命訓練の2回実施しています。避難訓練では職員の役割分担を決め、防災班を組織しています。通報訓練・避難通路・避難場所などは消防署と連携し、確認しています。災害時の対応方法を作成し活用しています。	夜間訓練はここ数年実施していません。相模川に近いこともあり、消防署と連携し、夜間を想定した「浸水想定避難訓練」を実施することが期待されます。非常食、飲料水の管理表の見直しも期待されま

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人・一人の発する言葉を大切に受け止め、共感し、その方の思いや誇りを傷つけないように心がけています。外部との情報連携の際には、守秘義務について十分に理解し、責任ある取り扱いをしています。	職員は施設のマottoである「明るい笑顔こそ最高の良薬」や理念の一つの「その人にあった役割」を基に利用者 に接し、人格尊重とプライバシー確保に努めています。元調理師による野菜きざみの手伝いなど、その人らしい前向きな力を活かすように支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて、会話の回数を多くしたり、コミュニケーションを取り方を工夫しながら、本人の希望などを、最優先するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ゲームや散歩などの参加は自由であり、本人の希望を取り入れ、自分のペースで過ごして頂けるよう柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時の服選びやお化粧などを楽しめる方もいて、職員もそれを支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の支度は簡単な調理や盛りつけと一緒にいき、食事前に「本日のメニュー」を発表しています。食後は出来る方は、自分の食器洗いをして頂いています。自分の前のテーブル拭きは各自で行います。	食材・レシピは業者から届き、職員が利用者好みの味付けで調理しています。利用者は調理や食器洗いを手伝っています。庭でのBBQ、近隣住民参加の豚汁・焼きそば作り、ホットケーキづくり、また、レストランの車での花見と食事など、食を楽しむよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分共に摂取量を記録して状況を把握出来るようにしています。栄養バランスについては、管理栄養士により栄養管理された献立を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、声かけして歯磨きをしています。入れ歯は寝る前にはずして入れ歯洗浄剤を使用して洗浄しています。訪問歯科の往診で週1回の口腔ケアを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各自の排泄パターンを記録にとり時間や本人の様子を見ながらトイレ誘導して、トイレでの排泄を促すようにしています。本人のプライドを大切にしながら、援助するようにしております。	リハビリパンツの利用者も極力布パンツで、日中は殆どの方がトイレでの自立排泄を習慣づけるよう努めています。リハビリパンツなどの使用回数を見直すなど、細かな改善をしています。リハビリパンツを市の別枠支援を得て補充することも行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や散歩等を行い、水分摂取を促す等便秘になりやすいように工夫しています。また、朝食にバナナや牛乳などを取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は本人の希望を取り入れて、公平になるように順番を決め、計画に沿って行っています。体調不良で入浴が困難な場合は、足浴や清拭をして、清潔を保つようにしています。	入浴は週2回を基本とし、順番は利用者が公平となるように毎週入浴予定表を作っています。ケースによっては柔軟に対応しています。車椅子の人もリフトを使用し、全員が湯船に浸かっています。冬の脱衣所は火傷の心配のない安全なヒーターを置き、温かくしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温の調節や寝巻の好みなど、一人一人の要望に沿って対応しながら、安心して入眠出来るように支援しています。シーツはつねに清潔にして、布団干しも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を個人別にファイルして、最新の情報が一覧できるようにしています。変更が生じた場合には日誌に記録し全職員が周知できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ゲーム進行や日々の予定表の読み上げ、調理などの役割分担を決め、日常生活の支援に取り組んでいます。地域の行事参加等は利用者と相談しながら、楽しんでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩に出かけたり、月に1回外食に行くことも楽しみにしています。	主に午前中に散歩に出掛けています。時には「服が欲しい」と職員と買物に行ったり、市の福祉有償運送を利用して墓参りに出掛ける人もいます。外気浴や洗濯物干しなどで、庭やベランダに気楽に出入りしています。行事の花見、外食、音楽祭、交流会と多く外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	各人が自由に使えるお金と小遣い帳をおき、外出して買い物をする際は本人に財布を持ってもらい、支払いをして頂くよう支援しています。バザー等でも楽しそうに買い物をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、本人から要請があれば、できるだけかけられるようにしています。毎年、手書きの年賀状を職員が支援しながら、家族に出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節が感じられる様な作品作りをして、居間や廊下に展示しています。行事や家族と一緒に写真なども展示しています。玄関には庭に咲いたお花を飾っています。	リビングや食堂は、3方向の広い窓から相模川、アーチ橋、丹沢の山々が見える見晴らしの良い空間となっています。壁には貼り絵、行事写真などが飾られ、手作りのカレンダーや予定表も掲示されています。ソファ横にはブロック折紙の鶴などが置かれていて、家庭的な雰囲気です。利用者は職員と一緒に毎日清掃しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日当たりの良いリビングにソファを置き、団欒の場所にしたたり、広いベランダに椅子とテーブルを置いてゆとりとくつろげるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談しながら、なじみの家具や家族写真などを各居室に置いています。又、仏壇などの本人のこだわりのある物も置いてあります。好きな歌手のポスター等も貼ってあり、居心地のよい雰囲気作りをしています。	エアコン、ベッド、カーテンは備え付けです。家具や仏壇を置いたり、思い出の写真、ぬいぐるみ、小物、絵、千羽鶴などで飾っています。家族と一緒に衣類などの入れ替えをする人もいます。本人・家族と相談しながら、好みの居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段昇降が不自由な方のために階段昇降機をつけて安全に昇降できるようにしています。階段やトイレ、廊下には移動しやすいように手すりをつけて安全に歩行できるようにしています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム グリーンハウス

作成日： 平成 29年 5月 17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	相模川に近く浸水することも考えられるが、浸水を想定した訓練を実施していない。また、昨年度は夜間想定訓練を行っていなかった。	夜間を想定した「浸水想定避難訓練」「火災想定避難訓練」を行う。	年間の防災訓練計画に左記の訓練の予定を入れる。	1ヶ月
2	13	非常用物品の管理表が古いままで見直しがされていない為、現在用意している非常食等の数が明確になっていない。 倉庫内の物品の置き場が分かりにくい。	非常食・飲料水は変動があるため、食品類の管理表と非常用物品の管理表を分けて作成する。	非常食は賞味期限で入れ替えをした為、現在用意してあるものの確認を行い、管理表を作成する。非常用物品に関しては見直し・整理を行い管理表を作成する。担当)防火管理者	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月